

# 中野区教育委員会会議録

令和元年第8回臨時会

令和元年8月5日

中野区教育委員会

## 令和元年第8回中野区教育委員会臨時会

### ○日時

令和元年8月5日（月曜日）

開会 午後6時30分

閉会 午後8時28分

### ○場所

中野区役所5階 教育委員会室

### ○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

### ○出席職員

教育委員会事務局次長 戸辺 眞

子ども・教育政策課長 永田 純一

指導室長 宮崎 宏明

### ○書記

教育委員会係 香月 俊介

### ○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 小林 福太郎

### ○傍聴者数

0人

### ○議事日程

#### 1 協議事項

(1) 令和2年度使用教科用図書の採択について（指導室長）

○議事経過

午後6時30分開会

入野教育長

こんばんは。

定足数に達しましたので、ただいまから教育委員会第8回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は小林委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りをいたします。

本日の協議事項「令和2年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書採択に関する規則第10条第1項に基づき、非公開の取り扱いとなっておりますので、本日の教育委員会についても、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書により、非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

(以下、非公開)

(令和元年第22回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

入野教育長

それでは日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員あてに、要望書などが届いておりましたら、ご報告願います。

指導室長

前回の臨時会から本日までに届いた要望書はございません。現時点での要望書の件数は前回の報告時と同様、3件でございます。

入野教育長

それでは、前回に引き続き「令和2年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。協議の進行につきましては、これまでと同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくお祈りをいたします。

それでは、英語について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

英語は、新しい教科ということもございますし、非常に冊数も、種類もありまして、どれも魅力的で、大変甲乙がつけがたいというか、迷う部分が多くありました。

その中で、私の方で注目をいたしましたのは、小学生から英語に取り組むということのメリットとして、英語の音や発音に慣れるということ、それから日常的な道具として、コミュニケーションの道具として英語を学ぶというような、生きた言葉と言うのでしょうか、コミュニケーションツールとして英語を学ぶということ、それが特に小さいときから学べる一つの大きなメリットかなと思いました。もちろん、教科の目標としても「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」ということ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことということが目的になっておりますし、また国際基準が参考にされているということがございます。国際基準の内容を確認いたしますと、かなり高いレベルといただきますか、コミュニケーションを自分で英語を使ってどんどんしていくような積極性が背景として求められているなということを感じますので、一層、そのような点に注目をしました。

その結果として、注目した教科書としましては、一つは開隆堂出版です。開隆堂出版は、非常に楽しいというか、目次を見ても、身近なことから名刺交換をしたり、クラスの誕生日ポスターをつくらうですとか、これは5年生のところを見ていますが、文法から入るのではなくて、コミュニケーションのツールとして楽しみながら、必要な日常的によく使う言葉を学んでいこうというような方向性が明確であるということに注目しました。

それから、開隆堂出版は、発音ということですか、音ということにも注目がされている、各社されてはいるのですけれども、そういったところも重視されていると思ひまして、全体にバランスもよく、楽しく学びながらもそういった発音ですとか、小さい子どもの方が獲得しやすい部分というのに注目がされているように思ひましたので、開隆堂出版は魅力的だなと思ひました。

その他、同じようなことで各社見たわけなのですけれども、一つ、聞くことと発音ということに連続して、つづりの問題があると思ひていて、中学生になると、本格的に英語の学習が始まったときに、ローマ字とは違うつづりの法則性、フォニックスというようなことがわかっているかどうかで、つづりの覚えやすさが違ってくるのではないかなと思ひておりまして、そういったことにもふれている教科書が良いかと思ひました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

英語の教科書ということで、今回から導入されたもので、今までに経験がなかったので、少し時間をかけて見ることはしましたけれども、やはり私自身、その教育の専門家ではないので、客観的なものの見方という形で、東京都の調査研究資料にありますように、教科の目標というようなところをまず観点に考えました。教科の目標は、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を育成するという文言が書いてありました。

また、先程伊藤委員も言われたように、国際基準を参考に、五つの領域、聞くこと、読むこと、話すこと、話すことが発表とやりとり、あと、書くことというような形で、目標を設定して、それに対してどの程度の分配がされているか、そういうようなことを中心にまた考えました。

コミュニケーションということなので、やはり外国の文化をどれだけ紹介しているのか、また外国語に慣れることによって、日本語と英語の違い、そしてコミュニケーションを図るために体験的な取り扱いをどういうふうに盛り込んでいるかということを中心に、いろいろと見させていただきました。

まず最初に、教科書なので、巻頭に教科書の使い方が書いてあるか書いていないかというところを見せていただきました。今回7社あったわけですが、違いが見られました。教科書の使い方が、「ホップ・ステップ・ジャンプ」であったり、音に出会う、会話を慣れるというような、表現の仕方は変わりますけれども、よくわかるような形で書かれている、それが大半だったのですけれども、開隆堂出版や教育出版などは、そういったまとめたページが示されていなかったように思いました。

そして先程申し上げた五つの活動の割合ですけれども、その中の割合に、やはり違いが見えていて、開隆堂出版は聞くことに重みを置いている。また、同じように、啓林館、そして光村図書なども聞くことに重みを置いている。そんなような傾向が見られております。

全体的なバランスの良さというところで見ると、東京書籍がよかったのかなというように感じます。

あと、教科書の中にいろいろなカードが用いられていたのですが、アルファベット

カードにつきましては、ほとんどの教科書で使用されていました。東京書籍や開隆堂出版、そして啓林館と教育出版は、イラスト付きの単語カードも用いていたのですけれども、啓林館はものすごく数多くて、少し数が多過ぎるのではないかなと思いました。親切で、どちらの方がいいのかよくわからないですけれど、少し多過ぎるような感じもありました。光村図書も結構多かったかなと思います。学校図書とか三省堂の方は、イラスト付き単語カードのようなものの準備はありませんでした。

あと、コミュニケーションの基礎というところでは、学校図書と三省堂が、教室で使う英語や会話などを載せていて、こういったところは少し他のところに見られない傾向で、これはとてもよかったのではないのでしょうか。

また、体験的な学習の方法として、チャンツやゲームの数というのも出ていたのですけれども、チャンツというと、歌のリズムに乗るような形になるかと思うのですけれども、それとのバランスというところだと、啓林館はゲームはゼロでチャンツだけ、また学校図書もゲームはほとんどないような形で、こちらのバランスについては、どちらがいいのかはっきりとは申し上げられないですけれど、他のところはある程度バランスよく配置されたのではないかなと思っています。

全体的に、それぞれこういう客観的なものの見方でも、多少差があるのですけれども、全体的なバランスと、学習の進め方、そして、そのいろいろな工夫という点において、若干東京書籍がよかったのではないかなと思います。

それで、東京書籍は、5年生のときは日本を、6年生は世界をテーマにした学習内容が当てはめられていたり、自己紹介、地域紹介、日本紹介というような形で、そういった単元を用いているのも結構やりやすいのかなと感じました。

全体的によくできてはいるのですけれども、そういう意味では、今回は私としてはバランスの良さということで、東京書籍の方を推薦したいなと思いました。

最後になりますけれども、英単語の方をどのようにまとめているのかというところで、東京書籍は別冊のピクチャーディクショナリーというものが用意されていました。分冊にするのはいいいのか悪いのか、これに関しては何とも、授業を進める先生側の意見にはなるかと思うのですけれども、こういったものはいろいろな工夫で、持って歩いて、なかなか小学生には適しているのではないかなと、私自身は感じました。この点も、東京書籍のよかった点ではないかなと感じています。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。それでは次に、田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は英語については、教科の目標である外国語によるコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を育成するという中で、特に聞くことと話すことが大切かなと思って、この二つを、苦手意識を持つことなく、楽しく身に付けられるようにというところに注目して選定したいと、まず考えました。

この背景には、以前、情報をいただいたのですけれども、外国語活動が導入されて育った今の中学3年の生徒の全国学力・学習状況調査の結果で、四つの力のうち、話す力が一番身に付いていないと指摘されたことも背景に考えました。

7社それぞれに工夫を凝らしていましたが、今お話ししたように「話す」と「聞く」に力を入れているという点では、東京書籍と開隆堂出版ではないかと感じました。

東京書籍は、巻頭に教科書の使い方が明確に示されていて、児童が1年間どう学ぶかというのを、わかりやすく理解できるのではないかなと感じました。外国語が初めての教科となるので、特に5年生では学習の助けになると思いました。

それから、体験的な学習として、巻末のコミュニケーションカードを使って自己表現する活動なども組み込まれて、全体としては実践的な構成になっているのではないかと感じました。

もう一つ、開隆堂出版ですけれども、いいなと特に思ったのは、登場人物が1年間、児童たちと一緒に学んでいくというのが明確に示されていて、英語を身近に感じるのではないかなと思いました。写真やイラストも、割と場面がリアルで、児童がイメージしやすい構成になっているのかなと思いました。あともう1点、習った言葉や学んだ言葉を活動で生かす流れが全体にあり、特に「話す」という力を身に付けるという意味では、よいのかなと思いました。

この東京書籍と開隆堂出版、両社、それぞれに特徴があると思いましたけれども、特にページを開いたときに見た感じなども含めて、開隆堂出版の方が楽しく英語を学べるという点で、中野の子どもたちに合っているのかなということで、開隆堂出版を推したいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

英語に関しては、今回、初めての教科書ということで、これまでもいろいろと様々なテキストは学校では使用されていましたが、しっかりとした形で主たる教材として使っていく上で、どれが中野区に適しているかということを考えてとき、やはりこの教科書の特性は、何と言ってもコミュニケーション能力をいかに培っていくかということが大きいと思います。その基になる聞くこととか、読むこと、話すこと、書くこと、そしてそれぞれそれを通してのやりとり、活動ですね。こういったものを具体的に教科書がどのような形で扱っているかということを見てみると、おおむね会社で言えば東京書籍、それから開隆堂出版、光村図書、教育出版、このあたりのところが大きな候補として挙がるのかなと感じました。

特に先程来、他の委員の方々もお話しされていましたが、聞くことということに関しては、東京書籍や開隆堂出版が非常にしっかりとした単元構成をしていて、学びやすいのではないかと思います。このことは、教科用図書の調査研究報告にも報告がされております。さらには、コミュニケーションという点では、特に場面への導入を非常にうまく使っている、紙面構成がたけているなどというのは、私は光村図書が非常に印象に残りました。特に何を学習するかということ、子どもたちがわかりやすいというのでしょうか、イメージしやすいという点では、非常に優れたものではないかなと思いました。

一方、教育出版も、特にこの基礎・基本をしっかりと身に付けるというようなことを意図した単元構成、または編集を心がけているということが随所に見られると思いました。

ただ、様々見てみると、それぞれに特徴があるので、どれか一つに絞るといえるのはなかなか難しいのですが、中学校では、本区では現在は開隆堂出版を採用していますけれども、その整合性がどうなのかということについては十分見出せなかったのですが、その小から中への流れは一つ、評価はできるかなと、選定のポイントにはなるかなと思いました。

もう一つ、先程来、これも話題に出ましたが、ピクチャーディクショナリー、いわゆる別冊のものが東京書籍に含まれているということです。これについては、この後、協議をする道徳の「道徳ノート」とは少し意味が違って、私はこの存在は非常に有効性が高いのではないかなと思いました。特にこの冊子は、非常に持ち運びも便利ですので、外出先にも持っていきますし、保護者も手にしやすいと感じました。また、中学校の先生もこれを見れば、大体小学校でこの程度のことをやっているということが押さえられ、そういう意

味で逆に、他の会社でなぜこういったものがないのかなというのは、ちょっとその辺が疑問に思ったところです。

様々な内容、視点がありますけれども、全体的ないわゆる中身をどう取り上げているかということ、都の教育委員会の資料なども見ますと、いわゆるゲームを扱っている、コミュニケーション能力を高めていくための一つの試みとして、どれぐらいゲームの数を取り上げているかということ、これは開隆堂出版と光村図書が非常に多くなっているということです。ただ、このゲームの数が多いからいいかと、それがイコールコミュニケーション能力の育成につながるかというのは、なかなか判断が難しいところですが、啓林館などは、こういうものが全く取り上げられていないというような部分は、ちょっと気になったところでもあります。

そのような形を見ますと、全体的にやはりバランスとしていいのは東京書籍、開隆堂出版というようなどころではないかなと判断をしたところでもあります。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の方から、意見を述べたいと思います。

初めての英語の教科書ということで、それぞれ良さとか特徴があるなということを感じました。

少し挙げてみますと、東京書籍は、別冊があるということです。今まで委員のお話にも出てきましたけれど、調査研究報告の中では、扱いが難しいのではないかという意見もありましたけれど、私はこれは持ち運ぶとか、学校外でも使えるとか、これから活用の方はたくさん出てくるのではないかなということで、非常に特徴があって、良さでもあるかなと思いましたし、二次元のコンテンツも充実しているかなと思いました。

開隆堂出版は、「CAN-DOマップ」がいいかなと思います。そして、6年の付録の中に、中学校につなげようというのがありまして、語順ですとか、過去形ですとか、外来語等を取り上げているのもいいかなと思いました。

学校図書は、中学校で一般的に使用されている4線、その幅に近いものでした。各社の幅を比べてみると、中学校で一般的に使用されているのに近いものを使用しているという特徴もあって、移行しやすい部分があるのかなという印象も受けました。

三省堂は、3、4年生の外国語活動の延長で学習ができるような構成にもなっていますし、各学年の巻末に、絵辞典があることとか、反対に言うと、中学校で今度行われる言語

活動や入門期の書体を使用するというような部分で、3、4年からのつながりとか、中学校へのつながりを意識してできているかなと思いました。

教育出版は、著名人の写真を大きく起用してしまっていて、スポーツ選手を中心に、有名人を起用しているので、子どもたちには非常に興味深く、英語の学習に入りやすいのかなという印象が、特徴として残りました。

光村図書については、二次元コードを繰り返し使えるようなアニメーション映像とか音声などとか、やはり質・量ともに充実しているなというのが一番強く感じたことで、「学びのパスポート」で成長を振り返るですとか、ペンマンシップノートが他の社から比べると独自かなと思いました。

そして啓林館ですが、啓林館はやはり6年生の最終単元で中学校生活について述べているところが、これもまたいいかなと思いましたし、学習の流れがわかりやすい、先程お話もありましたが、そのような印象も持ちました。

それで、私としては、中野区のことから言いますと、どの子どもということかもしれませんが、低学年から中学年では、聞くこととか話すことを中心とした外国語活動を行っていて、高学年段階ではやはり新しい学習指導要領にもあるように、読むことと書くことが中心となる外国語を学ぶという形になっていくということをつまみと、聞くこととか読むこと、話すこと、書くことのバランスが、東京都の調査研究資料から見てもいい東京書籍。特にやりとりのある話すことと、読むこと、書くことは、東京書籍が一番割合としても多く扱っているので、よいかかなと思いました。

それと選定調査委員会からもありましたけれども、もう一つは、やはり初めての教科書ということもありますので、学習の流れがわかりやすいということを2番目の視点として見ていきました。そうすると、東京書籍や学校図書や啓林館がわかりやすいかなという気がいたしました。ですので、調査研究会からの、日本のことも触れられていて、英語を学ぶ意欲付けによいとかという意見も、そうだと思いますので、最終的には、東京書籍、それから光村図書がいいと思います。

さらにどの社も、どの教科書もということなのですが、ユニバーサルデザインに関してはしっかりと取り組んでいて、特にカラーデザインだけでなく、今話題になっている弱視やディスレクシアへのヒアリングをもとに開発したと私も聞いているのですが、そういう教科書体を使用しているような教科書もあって、区民意見にもあったのですが、特別に支援を要する子どもたちにも配慮されたものになっているかなという印象を持ちま

した。

ですので、最終的には繰り返しになりますが、東京書籍、光村図書、啓林館がよいかと思いました。

以上です。

他に各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ここで会議を休憩いたします。

午後7時00分休憩

午後7時20分再開

入野教育長

それでは会議を再開いたします。

各委員からご発言はございますか。

小林委員

先程、最終的に東京書籍と開隆堂出版という二つの候補を挙げましたけれども、それぞれにやはり捨てがたいもの、いいものがあるように思います。開隆堂出版の場合には、系統性というか、英語全体をしっかりとこの2年間で学んでいく、そして中学校につなげていくという意識が非常に強いので、紙面構成、その他も、従来の教科書のような形でしっかりと構成されているという、安定感というか、良さを非常に感じます。

一方、東京書籍の場合には、もちろんそういったものも踏まえながらも、活動を重視しているというか、できるだけ英語が苦手な子をつくらぬような形でどんどん進めていくこと。また、指導者にとっても流れがつかみやすいというような利点があるかと思えますので、そういう点では少しまざっているのかなと感じたところであります。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。他にございますでしょうか。

渡邊委員

今、教育委員の皆さんのお話を伺いまして、実際、開隆堂出版と東京書籍の教科書によりやく意見が集中してきたように思います。

私も開隆堂出版の最初のページの開きにある「CAN-DOマップ」、こういうのも非常に開隆堂出版の特徴ですし、最後には単語リストというような形での掲載がある。そして、単語が羅列されて、単語を覚えたのか覚えていないのかが問われるような。またそう

いう見方をすると、やはり開隆堂出版はよくできているのですけれど、どちらかという、東京書籍との比較になれば、より昔の教科書的というような形が開隆堂出版に見受けられます。今回の新しい学習指導要領の改訂の趣旨、英語と言う教科の趣旨とか、教科の目標を見ると、やはりコミュニケーションを図る基礎となるという形で、体験的に取り扱っているということも重要視されています。そういう点から考えると、様々な意見があったのですが、東京書籍の方がよくそのあたりは検討されていると思いました。

また、新しく入った教科ということで、先生方も困惑をしているかとは思いますが、そういった意味では、授業の流れが教科書の中からも読み取れるということで、子どもたちにもわかりやすく、先生も教えやすいようなイメージを受け取りました。

その他に、一番最後のところにアルファベットカードがあるのですけれども、開隆堂出版もついてはいるのですけれど、切れ線が、ミシン線が入っていないので、これは自分で切るのもちょっと大変かなとか、そんなような利便性という点でも工夫が、若干違いがあるのかなと感じました。

そういう意味で、捨てがたいところですが、今回は、私は東京書籍を推薦したいと思います。

入野教育長

ありがとうございます。他に各委員からご発言はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

東京書籍と開隆堂出版、さらに光村図書も挙がりましたし、啓林館も挙がるということで、複数の候補が出ておりましたが、今のお話で、東京書籍と開隆堂出版に絞られ、さらに東京書籍の方が多かったといいますか、一番に挙げていらっしゃる方が多かったようでございます。ただいまの協議の結果、英語については、東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、英語については東京書籍を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、英語については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、続いて道徳について、協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、渡邊委員、お願いいたします。

#### 渡邊委員

道徳に関しては、今年度も8社の教科書がありました。こちらの方も、先程の英語でも申し上げたように、この道徳科というものをしっかり私の方で理解できていないところもあるので、やはり客観的に見させていただきたいと思います。

それで、昨年度もそうだったのですが、内容項目のまとまりに、自分自身に関する事、他の人とかかわりに関すること、集団や社会とかかわりに関すること、そして生命や自然、崇高なものとかかわりに関することというような形で四つの視点があって、そういった視点がどのように配分されているのかというところで、見させていただきました。

その中で自分とかかわること、生命や自然にかかわることに多く配分されているのは、東京書籍でした。逆に言うと、光村図書、文教出版とか廣済堂あかつきは、若干そのあたりが少なくなっている。そういうような組み合わせで構成されております。なお、特に生命の尊さに多く重点が置かれていた日本文教出版、光村図書、東京書籍、特に光文書院は、さらに多くの配分がされていたのがよかったのかなと思います。

また、教科書としては、2冊分冊となっていて、そのうちの1冊として「道徳ノート」がついているのが、廣済堂あかつきと文教出版でした。「道徳ノート」、こちらについては、昨年度も言ったのですが、あまり使いやすくないのではないかと、この辺は一応何とも言いがたいのですが、1冊になっていた方がいいのかなと思いました。

また道徳の中では、やはり重大な問題としてはいじめに対する学習がどう組まれているかということで、しっかりいじめの問題に特化したユニットで作っているのは東京書籍と光村図書、日本文教出版で、とてもよかったと思いました。

そして、他の部分で、安全とか防災についての取り扱いなのですが、各学年で必ず取り上げているかどうかは気になりました。学校図書は全学年は取り上げてはいなかったり、学研教育みらいも同様で、全学年取り上げているのは光文書院と日本文教出版、それと教育出版、東京書籍でした。自分の仕事とかかわりのある食育とか健康については、毎学年ごとに取り上げているのが東京書籍で、廣済堂あかつきも食育に関しては全ての学年を通して教材を用意しているが、そういうようなばらつきがある。今回もこのバランスの良さ、いろいろな教材とバランスの良さという点で、いじめに対する問題をしっかりと明確に示していたりとか、各学年、全ての学年において、ばらつきの少ないような形で教材

を配置したりとか、そして四つの視点に関してもばらつきがないということで、今回は、前回と同じになるのですけれども、東京書籍がバランス的によかったのではないかなというところで、今回は東京書籍を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

道徳ですけれども、私は中野区の教育ビジョンの中に中野の子どもたちが育ってほしい人物像が四つ、提示されていますけれども、それを踏まえて、今回の選定では、この四つの人物像の視点がバランスよく構成されているという点が一番大事かなと考えました。この点では、東京書籍と学校図書、それから光村図書がこの四つの視点をうまく構成しているのではないかと考えました。

その中でも東京書籍は、道徳のみんなで考えるという視点から見ても、教員の発問に自由度が高い点とか、それから題材をイメージしやすいイラスト、そしてどう違うのかよくわからないのですけれども、見たときにすごく文字が見やすいことなどから、児童にとって理解の助けになると考え、東京書籍を推薦したいと思います。

特に、平成30年に教科化されて間もないことから、現在東京書籍を使用していますけれども、調査研究報告でも若手からベテランまで使いやすいということも指摘されていますので、現在使っていて大きな課題がなければ、継続が望ましいということも選定の理由として挙げたいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

道徳については、特別の教科道徳という形になって、小学校では昨年度から教科書が新たに配布され、完全実施されたということで、今年も含めると2年間使って、今度新しい教科書を採択するという、大変短いスパンになっています。特に教科化されて言われていることは、道徳は教え込んだり、行動することを期待すること、直接行動を短絡的に期待するというのではなくて、様々なことを自分の生き方の問題として考えを深めること、それから議論をすること。いろいろな様々な意見を聞いたり、また自分で発表したりして、

授業を深めていくという、非常に重要な、今のいわゆる主体的・対話的で深い学びを具現化していく重要な教科だと捉えています。

そういう視点からすると、やはり教材の質というのが非常に問われてくると思います。各社の教材を一応見ると、かなりどの会社も共通して取り上げているものも多くあって、大きな違いというのはないと思いますが、バランスの良さからいくと、光村図書、それから東京書籍、そして日本文教出版、この3社が候補として挙がるのではないかと考えました。

この3社については、教科書の構成を見ると、それぞれの教材の最後に、考えよう、話し合おう、つなげようとか、いろいろな授業を進めていく際にヒントとなるようなそういう発問構成的なものがここに出ているわけなのですが、残念ながら光村図書はこれが非常に丁寧に書かれてありまして、どうもこのとおりにやればいだろうみたいな形で、いわゆる学級の実態や教師の創意工夫が十分生かされないで、厳しく言うと、授業が形骸化してしまうおそれがあるのではないかなということがあります。

一方、日本文教出版は、非常に教材の選定などバランスがよくて、見やすい紙面構成になっているのですが、やはり何と言っても別冊のノートがついているという点が非常に気になります。この点は、先程の英語とは別で、英語の場合はいわゆる別冊があることは有効性があるというようなことを申し上げましたが、道徳の場合にはこれがあることによって、学習負担であるとか、また本来の道徳の授業の良さが損なわれてしまうというおそれがあって、「道徳ノート」自体は大事なのですけれども、ワークシート的になってしまって、もうそれをやればいだろうという、そういうような状況に陥る可能性がある。実際に、各区市などの採用状況の中で、使っている地区では、もうそれをやって精いっぱいというような実態も見受けられるということを見ると、やはりバランスの良さからいくと、東京書籍がかなり優位ではないかなと思います。

特に現在も東京書籍を使っていますので、2年間これで使い切って、さらに継続してそれを極めていくということの方が、中野区にとってはいいのではないかなと考えております。

それから、ちょっと細かいことですが、道徳に関してはいろいろマスコミその他でも様々なことが言われてきていますけれども、東京書籍の中に「星野君の二墨打」という教材が入っています。これが結構批判されている向きがあるのですが、私はこれが入っていることを大変評価したいと思っています。これは実は文部科学省の資料にもなってい

たものなのですが、それをイラストにしてわかりやすく掲載をしています。この扱いが非常に高圧的でよくないのではないかという向きもあるのですが、決して道徳は押し付けるとかそういうものではなく、いろいろな場面設定で考えを広げたり、深めたりする時間です。非常に有効なものではないかと思っていますので、そういう意味では新しい教材も結構入っていますし、古典的なそれなりに使われてきたい教材も入っていると。そういうバランスの良さからも、私は非常に評価したいなと考えているところです。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

道徳も各社特徴があるなと思いました。私の方で特に注目したのは、やはり考える、みんなで考え、いろいろな多様な意見を語り合ったり、聞き合ったりという活動が今回の道徳の大きな特徴かなと思っていますので、そういった活動がしやすいということ、また、それとの関連でもありますが、様々な教材のバリエーションがあることで、いろいろな形での意見の出し合いや交流ができることも、重要かなと思いました。

バランスの良さということから、私も光村図書と東京書籍に注目するのですがけれども、ただ、光村図書のものは、「考えよう、話し合おう」の課題が細かいので、それをしてると十分時間が足りるのだろうかというところがありまして、それに対して、東京書籍の方は全体のバランスもいいですし、発問も非常にシンプルで、例えば5年生ぐらいですと、この教材の中の登場人物の思いということと、今度はそれとの関連で自分はどんなことを考えるのだろうか、あるいは自分ができることは何だろうかというような、非常にシンプルな問いになっているので、比較的自由に活動ができるのかなと思いました。その一方で、少しワーク的なものというのでしょうか。単に教材を読んで主人公と比べて自分の考えをというようなパターンだけではなくて、少しアクティビティ的な、同じグループの友達のよいところをシートに書いて交流してみようとか、学級集団づくりにもかかわるような活動、歌が出てきたりなど、いろいろな形で活動が意識されているかなと思いましたので、東京書籍がいいのではないかと思いました。もちろん現在使われているということもありますので、継続して使ってみることも大事かなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私から意見を言いたいと思います。

私は3点から比べてみました。

1点は、先程もお話がありましたように、中野区は、心を育てて自他の生命や人権を尊重する教育に重点を置いてきております。それは長い間取り組んできていますので、親切、思いやりとか生命尊重を特に重視したいと思ひまして、その扱い方で見てみました。親切とか思いやりについては、学研教育みらいや廣濟堂あかつき、東京書籍がやはり厚いかなと思ひましたし、生命尊重では光文書院や東京書籍、光村図書、日本文教出版、学研教育みらい、廣濟堂あかつきが多いかなと思ひます。

他の委員からもお話がありましたように、特に東京書籍は全学年で「いじめのない世界へ」ということで、ユニットとして目次も色分けされているという特徴がありますし、学校図書は「共に生きる」ということで、いじめとか思いやり、光村図書は「いじめを許さない心」を重点教材にしておりますし、日本文教出版は「人とのかかわり」ということでユニットをとっていますし、光文書院は「いじめを生まない心」を育むという教材があります。教育出版はいじめ問題と向き合うという教材が多いですし、学研教育みらいはいじめ問題に対応できる力を育む教材ということ。さらに廣濟堂あかつきはいじめにかかわる教材を扱っているということで、その扱い方、目的から考えると、やはり東京書籍の「いじめのない世界へ」が、私としてはより中野区ではしっくりくるかなと思ひました。

東京書籍の次には、教材のバランスもよくて、各学年2教材1コラムのユニットで「いじめを許さない心」として、重点的に扱っている光村図書はどうかなと思ひました。

2点目は、先程来お話が出ている、ノートがついているものについての評価でございます。学校の意見にしても、選定調査委員会の意見にしても、均一化した授業になってしまうとか、反面、校内で指導が統一できるいい面もあるという意見もありました。反対に、また担任の裁量が生かされにくいという意見も挙がっていたと思ひますけれど、本区においても若手教員が増えている現状からすると、発問の仕方ですとか中心発問がわかりやすく表されているノートは、授業がある意味どのクラスも統一されやすいように思われます。けれども、本区ではないのですけれど、道徳の授業を幾つか見せてもらいましたところによりますと、どうもこのノートにとらわれ過ぎてしまって、書くことが多いので、教師も書かせることに追われているような授業を見ることが多いような気がしました。子どもの心を本来揺さぶるような授業がしにくくなっているように感じています。道徳の時間を充実させるには、書くことも大切ですが、それよりもやはり考えるとか、議論すると

いう道徳をさらに進めるべきだと、本区については思っております。そういう面で、ノートについているものについては、私はいかがかなと思いました。

3点目は、これも他の委員から出ておりましたが、2年間使用してきている東京書籍については、選定調査委員会、調査研究会、学校の意見も全部見させていただきましても、特段に課題は挙がってきていないかなと判断いたしました。調査研究会では、全体的にどの学年もバランスがとれているのは東京書籍ではないかという意見もございましたので、私としても東京書籍と光村図書とを出させていただきましたけれども、最終的には東京書籍にしたいなと思っております。

以上です。

他に委員からご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは道徳につきましては東京書籍や光村図書、日本文教出版などの複数の候補ができましたけれども、総合しますとまず第一にということで、道徳については東京書籍でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、道徳については東京書籍を採択候補とすることで、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、道徳については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

続いて、令和2年度使用の中学校教科用図書の採択について協議をいたします。

初めに事務局から経過説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、令和2年度使用中学校教科用図書の採択について、ご報告いたします。

4月26日の教育委員会定例会におきまして、中学校教科用図書の採択方法について、道徳を除いた他の9教科につきましては、令和3年度からの新学習指導要領の全面実施に伴い、令和2年度に全教科書の採択替えを控えているため、本年度は前回の選定調査委員会等の報告に基づき進めると、ご決定をいただきましたところでございます。

あわせて、文部科学省からは、今年度の新たな中学校教科書採択に当たっては、「採択権者の判断と責任により、綿密な調査、研究を踏まえた上で、適切に採択が行われるこ

とが必要となるが、その際、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を使用することも考えられること」との通知があったことから、中学校10校へ4年間の使用実績の聴取を実施いたしました。

集計の結果、3校から意見が出ましたが、その他の学校からは課題なしとの回答がございました。

報告は以上となります。

入野教育長

ただいま、経過説明と、中学校の教科用図書の使用実績について、説明がありました。

引き続き、令和2年度の1年間、同様の教科書を使用することについて、ご意見はございますでしょうか。

田中委員

今、3校から意見が出たということで、簡単で結構ですけれども、どんな意見だったのか、教えていただければと思います。

指導室長

まず前提としましては、同じ教科書会社、教科に対して同様の意見が複数校から出ている例はございません。ほとんど教科はばらばら、それから学校もばらばらということでございます。

何がだめだというよりも、要望的なものが多くて、例えば地図では、色合いが濃過ぎるので、もう少し薄いと見やすいとか、英語ですと、教材のテーマが捉えにくいものがあるから、より身近で日常的なものがあるとよいとか、保健体育だと、各領域でもう少しまとめたり、精選して分量を減らすとよいとか、そのような意見が出されました。

田中委員

ありがとうございます。

入野教育長

他にございますでしょうか。

小林委員

今の3校からの意見というのは、よくわかりましたけれども、その他、これまでそういった調査以外に様々学校などに出向いた際に、教科書に関して、これは単なるマイナスだけではなくて、プラスも含めて、何か教科書にかかわっての感想とか、そういった実情を把握したということが、もしあれば、教えていただきたいと思います。

指導室長

まず、これまで中学校が比較的学習教科ですと、教科書で教えるというより、教科書を教えるという傾向が強く、それが批判されてきたところでございます。このところ、主体的・対話的で深い学び、かなりそういうことが徹底してまいりまして、教科書をそのまま教えるということをしないう授業改革が進んできたように思います。

ということで、教科書は教科書できちっとその内容を教えているのですけれども、それをそのまま教えるということではなくて、教員がここで何を教えなければいけない、特に今回の学習指導要領にある、どういう見方・考え方で、このところでどのような手段を使って、どのような能力を身に付けさせるということ、非常に明確に行っております。当然、教科書そのまま教えるということは、非常に適切でないことだと思いますので、様々な教材を使いながら、一生懸命頑張らせていただいているとともに、さらに最近デジタル教科書をたくさん使っていただいているところでございます。教育委員会でも一部デジタル教科書を導入してございますけれども、それを投影することによって、そこからまた考えさせるような授業を、うまく使ってやっているところでございますので、結論から申し上げまして、教科書がこれだから使いにくいとか、そういうことではなく、さらにどの教科書を使っても、そこから教員が創意工夫して展開しているような授業が多くなったように感じております。

小林委員

ありがとうございます。

入野教育長

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、私の方から。指導室長の説明から言うと、地図の色彩はともかくとして、あとの学校からの意見については、指導をする際に解決できる問題であると捉えてよろしいでしょうか。

指導室長

おっしゃるとおりだと思います。どの教科書を使っても、その扱い方とかそういうことで補えると思いますし、教員は教科書は主たる教材として使っておりますが、様々な、例えばインターネットのコンテンツを持ってきたりとか、資料を持ってきたりして授業を行っておりますので、授業のねらいにかなった、自分の望む授業を展開するためのいろいろな教材をそろえているものだと思っておりますので、補えるものと思っております。

入野教育長

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ただいまの各委員からのご発言では、現在、使用している教科書を改めて替えるという意見ではなかったように思います。

教育委員会としては、中学校で使用する令和2年度の教科用図書については、現行の教科書を使用するというので、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、中学校の教科用図書については、現在使用している教科書を採択候補とすることに決定いたしました。

続いて、特別支援学級で使用する教科用図書について、協議を行います。

事務局から説明をお願いします。

指導室長

中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第9条により、特別支援学級において学校教育法附則第9条に規定する教科用図書または同法第34条に規定する文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用する必要がある場合においては、当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聞くこととしております。

つきましては、資料「令和2年度使用教科用図書の採択希望一覧」のとおり、特別支援学級を設置している区立学校長より回答がございましたので、ご報告いたします。

報告は以上となります。

入野教育長

それでは、各委員から質問等ご発言がございましたら、お願いいたします。

私の方からよろしいでしょうか。

例えばみなみの小学校から出ている道徳と英語ですが、教科書として使用する採択希望ですけれども、子どもたちの実態に応じて学校から挙がってきているものだと思いますが、例えば英語ですと5、6年生が同じ本を使うということ、道徳も1年生から6年生までが同じ本を使う、他の学校にもそういう部分があったかと思いますが、このことについては、どのような意見が上がっているのでしょうか。

指導室長

正式にきちんと聞いたことではございませんけれども、一般的に特別支援学級で同じ教

科書を使う場合は、それぞれの集団ですとかそれぞれの学年で、その教科書の中でそれぞれの子どもの実態に合った働きかけとか、使い方をしていると伺っております。

入野教育長

ありがとうございます。各委員から他にございますでしょうか。

小林委員

今の、特別の教科道德の扱いについては、特に特別支援学級に関しては、その発達の状況が一人一人かなり違うということ、それから特別の教科道德という特性から、必ずしもその当該の学年のものを使うというような必然性はないと、実態に応じてフレキシブルに様々な教材を活用していくということの方が適切だと思いますので、逆に指導側の力量とか、工夫が問われるということだと思いますので、この点はぜひ学校にもしっかり指導をしていただきたいなというふうに思います。

別件ですけれども、常に言われることなのですが、こうした書籍等については、絶版であるとか、品薄であるとか、そういったことがありがちなのですが、この辺のところの確認は、いかがでしょうか。わかる範囲で教えていただければと思います。

指導室長

過去にもいろいろなことがございましたので、なかなかはっきりは申し上げられないところもあるのですが、現段階におきましては、東京都それから文部科学省等の資料から出てきておりますものについては、絶版などは、今の段階では確認できておりません。

入野教育長

他にご意見ございますでしょうか。

伊藤委員

第二中学校と美鳩小学校は、全て検定教科書を希望するというようなことなのですが、何かこれは理由とか、ご意見はあったのでしょうか。希望の理由も書かれていないので、どういったことなのかなと思ひまして。

指導室長

こちらも学校の方から上がってきたところで、学校も多分いろいろ議論されたと思うのですが、結果的に検定教科書でやりますということしか伺っていないです。

例えば学校によっては随分ぎりぎりまで議論されていた、選定をされていたようなところだったのですが、いろいろ考えた結果、検定教科書でやらせていただきますということで、伺っております。

伊藤委員

他の学校でも例えば低学年などは検定教科書で、学習が非常に抽象的な概念を含むような段階になってくる5、6年生から、子どもたちに合った教科書を選定するとか、あと、教科によって活動ベースの図画工作などは検定教科書を使うとか、使い方が予想できますが、全ての学年が検定教科書というのも、使い方についてどういう工夫をされるのかなと思いました。先程来の教科書選定からも、やはり深い学びということで、教科書が全体に思考力を要する難しい内容になっていると思うのですが、そういったことも踏まえて使い方をどんなふうに工夫されるのかなと思いました。そういったことについては、やりとりはなかったということですよ。

指導室長

本当に、このような学校は、もうぎりぎりまでいろいろ考えられて出して、結果的にこれにするということで、先程来、申し上げたとおりでしたので、今のような深いことの聞き取りまでには至っておりません。

今後もこのような学校につきましては、授業を我々としましてもよく見て、どの教科書を使うにしても、指導の内容はしっかり見てまいりたいと思っております。

伊藤委員

多分、副読本を使われるとか、いろいろあるのだろうなと思いますので、よろしく願います。

入野教育長

他にご意見ございますでしょうか。

小林委員

今の件は、とっても大事なことで、やはり肯定的に解釈すれば、特別支援学級の特徴からいって、子どもの実態に応じた結果ですよと捉えてもいいと思うのですが、確かにこのように他校の実態と比べると、どうしても否定的な見解を持たざるを得ないというようなところもあろうかと思えます。

例えば第四中学校のように、検定教科書と一般図書を併用するという、こういったものがかなり実態に近いようなものではないかなと考えますので、この点はぜひ今後の重要な、特別支援教育を充実させていくという視点からも、ぜひこの選定と活用については、各学校とも情報交換も含めて研修を深めて、さらに子どもたちに合ったものを、採択希望を出すような形で進めていただければと希望します。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

それでは会議を休憩したいと思います。

午後8時03分休憩

午後8時22分再開

入野教育長

会議を再開したいと思います。

指導室長

先程の質問にもお答えしたいと思いますけれども、本来、教科書選定には優先順位がありまして、まずは検定教科書、2番目としまして文部科学省の著作教科書、そして3番目として一般図書ということになっているのですが、検定教科書を使う場合は、「令和2年度使用教科用図書の採択希望一覧」に希望理由は特に書かなくて良いということにしております。

以上です。

入野教育長

よろしいでしょうか。他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、特別支援学級で使用する教科用図書については、資料に記載の教科書を採択候補とすることで、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、特別支援学級で使用する教科用図書については、資料に記載の教科書を採択候補とすることに決定いたしました。

それではこれで、全ての種目の教科書についての協議が終了しましたので、事務局から採択候補として決定した教科書及び今後の採択スケジュールの説明をお願いします。

指導室長

今回の採択候補として決定した教科書について、再度教科書順に確認とご説明をいたします。

まず国語ですが、光村図書株式会社の「国語」。書写が、日本文教出版株式会社の「小学書写」。社会が、東京書籍株式会社の「新しい社会」。地図が、株式会社帝国書院の「楽

しく学ぶ 小学生の地図帳」。算数が、東京書籍株式会社の「新しい算数」。理科が、大日本図書株式会社の「楽しい理科」。生活が、東京書籍株式会社の「新しい生活」。音楽が、教育出版株式会社の「小学音楽 音楽のおくりもの」。図画工作が、開隆堂出版株式会社の「図画工作」。家庭が、開隆堂出版株式会社の「私たちの家庭科」。保健が、株式会社光文書院の「小学保健」。英語が、東京書籍株式会社の「NEW HORIZON ELEMENTARY」。道徳が、東京書籍株式会社の「新訂 新しい道徳」。

特別支援学級で使用する教科書につきましては、本日の教育委員会資料に記載の教科書が採択候補となります。

続きまして、今後のスケジュールについて申し上げます。

8月9日開催予定の定例会におきまして、先程の採択候補の小学校用教科書、特別支援学級で使用する教科書、また中学校用教科書について、議案として改めてご審議をお願いしたいと思います。

以上でございます。

入野教育長

ありがとうございました。

採択候補として決定しました教科書については、事務局の報告のとおりですが、全体を振り返って、各委員からご意見、ご発言はございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは、ただいま採択候補として確認しました教科書につきましては、8月9日の定例会において、議案として審議することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは、本件教科書採択について、8月9日の定例会において、議案として審議することといたします。

次に、非公開としてきた本件採択過程に係る会議録の公開の取り扱いについて、事務局から説明をお願いします。

子ども・教育政策課長

本件教科書採択にかかわる教育委員会の会議につきましては、採択過程における公正の確保等の観点から、これまで非公開としてまいりましたが、8月9日の定例会におきまし

て、本件教科書採択に係る議案が可決されました場合には、本件教科書採択にかかわる教育委員会会議録の公開につきましてご審議いただき、本件会議録における非公開部分につきまして、個人情報に該当する部分を除き、公開する旨の決定をいただくものでございます。

公開の決定をいただいた場合の当該会議録の公開時期につきましては、その作成に一定の期間を要しますことから、当該会議録が調製され次第の公開となりますが、時期につきましては、おおむね9月下旬以降を見込んでございます。

なお、本件会議録の公開の方法につきましては、区政資料センターに一式を備えるとともに、教育委員会ホームページにおきまして会議録の掲載をいたします。

また、選定調査委員会の資料等を含めました本件教科書採択にかかわる一連の資料につきましては、指導室を窓口といたしまして、本件会議録とともに一括して備え置きまして、公開する予定でございます。

説明につきましては、以上でございます。

入野教育長

それでは、本件会議録については、ただいまの事務局の説明のとおり、8月9日の定例会で教科書採択後に、会議録の公開について議案として審議することに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

本件会議録の公開については、8月9日の定例会での教科書採択後に、議案として審議することといたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第8回臨時会を閉じます。

ありがとうございました。お世話さまでした。

午後8時28分閉会